

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493000325	事業の開始年月日	平成29年3月1日
		指定年月日	平成29年3月1日
法人名	株式会社 ソラスト		
事業所名	グループホーム ソラストつきみ野		
所在地	( 242-0001 ) 神奈川県大和市下鶴間12番地2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和4年1月7日	評価結果 市町村受理日	令和4年4月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「グループホーム ソラストつきみ野」は、閑静な住宅街の中にあり地域の方々に支えられ運営させて頂いております。会社全体の理念である一人一人の生活に合わせた介護をさせて頂いております。特に食事やイベントに力を入れており管理栄養士の作ったメニューに基づき、各月に「お寿司」をご提供させて頂いたり、館内のイベントとしてご入居者様と一緒に料理や誕生日ケーキを作ったりしております。ご入居者様にも大変喜ばれているイベントです。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年2月8日	評価機関 評価決定日	令和4年4月5日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「相模大野」駅で下車し、バスに乗り「上鶴間本町九丁目」で下車し、徒歩で2分ほどの住宅街の中にあります。建物は、鉄筋コンクリートの2階建てのカラフルな建物です。運営法人は株式会社ソラストで、医療・介護・保育・福祉の幅広い分野で、事業を展開しています。

<優れている点>

法人の理念以外に、事業所独自の理念を毎年見直し、周知徹底しています。本年度の事業所の理念は「安心して笑顔で暮らせる」「ワンチームでの統一介護」です。法人の企業理念を「人と暮らしを元気にすること」とし、土台としています。事業所は日頃より、管理者と職員、職員同士、職員と利用者とのコミュニケーションに努め、穏やかで風通しの良い雰囲気づくりに努め、職員の離職率の低さに繋がっています。利用者や家族と親身に向き合い、家族の満足度にも繋がっています。また、身体拘束ゼロや虐待防止についてマニュアルを作成し、研修後のレポートを義務付け、職員の意識を高めています。業務日誌は一枚の用紙に昼夜の様子を記録し、職員間で利用者の状態が分かりやすく共有できるように取り組んでいます。

<工夫点>

コロナ禍により感染者を出さないように感染予防を徹底し支援に取り組んでいます。家族との対面による面会は自粛し、オンラインで行っています。年6回行っている運営推進会議も書面会議に変更しています。また、記録にタブレットを導入し、業務改善にも取り組んでいます。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ソラストつきみ野
ユニット名	ユニット1

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	年度ごとに事業所目標を作成し4月の会議等で共有し、半年ごとに各職員と個人面談を行い、実践出来ているかの確認も行っております。	法人理念と事業所理念があり、毎年見直しを行います。今年度の目標は「ご入居者様や職員の笑顔が見られる施設」「ワンチームでの統一介護」とし、パンフレットにも掲載していません。職員には研修で説明し、事業所内にも掲示し周知しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板や運営推進会議でも、お知らせ等で情報を頂いております。現在は新型コロナウイルスの影響で地域行事の開催やボランティアの受け入れの中止が余儀なくされ、地域の方々との交流の機会はありませんが、職員の出勤に挨拶を交わしています。	自治会に加入しています。コロナ禍により今は自粛していますが、自治会の祭りの参加や、ボランティアによる三味線や楽器演奏、押し花作りの来訪、地域の人々への認知症講習会も主催しています。現在は近隣の人への挨拶を必ず行い交流を繋げています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所としては出来ておりません。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は、書面での対応となっておりますが2か月に1度運営推進会議を開催しメンバーの大和市役所介護保険課や地域包括支援センターや自治会長や民生委員やご家族様に報告し参加者からアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしています。	コロナ禍の為、運営推進会議は2ヶ月に1回書面式会議で対応しています。大和市役所介護保険課、地域包括支援センター、自治会長、民生委員、家族が参加しています。報告書を郵送し、返事を貰っています。家族からの提案により、嚥下機能の維持を目標とし、口腔体操や歌のレクリエーションを取り入れた事例もあります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	研修や講習会があった時は、職員にも内容を周知し参加を促しています。相談や質問がある場合は、大和市役所介護保険課の方とメールや電話にて連絡をとっています。また、生活保護受給者の受け入れも行っている為、大和市生活援護課の方とも日頃から連絡を取っています。	コロナ禍前は、大和市役所や地域包括支援センター主催の勉強会に出席していました。現在は、介護保険課と電話やメールでやり取りをしています。生活保護受給者の受け入れに関して生活援護課も交えて入居相談を行います。コロナ禍においても年に一度は生活援護課からの来訪があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロのマニュアルを作成し現在は書面にて勉強会を行っております。事業所内にも身体拘束の指針等を掲載しております。また、「身体拘束廃止委員会」を3か月に1回開催しております。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回開催し、書面でも職員に周知し、レポート提出も行い理解を深めています。身体拘束によって身体状況が低下しかねないことを職員に周知徹底し、支援に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に係る指針を作成し現在は書面にて勉強会を行っております。事業所内にも指針等を掲載しております。また「虐待防止委員会」を3か月に1回開催しております。	身体的、心理的な不適切ケアについて、年に一回勉強会を行っています。法人主催の「虐待の芽」アンケートを実施し、虐待防止に努めています。また、職員の疲労やストレスが利用者への不適切なケアに繋がらないように、年2回の個人面談の機会を設け、職員の状況の把握に努めます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は、書面にて勉強会を行い、知識を得て個々の必要性を関係者と話し合い、活用できないか提案しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分に説明をし疑問点等ないかも確認し、同意のもと署名と捺印をもらっております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年、ご家族様にアンケートを実施し、結果を事業所内に掲示する等全職員がご家族様からの意見や要望を把握出来る様になっています。また、全ご家族様に毎月状態の報告書をお送りしています。	コロナ禍により家族との対面による面会が難しい為、電話の取り次ぎをしています。毎月の変化がわかるように月に一回、家族に書面で利用者の状態を報告しています。さらに年に一回は家族アンケートを行い、意見の把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送りの時間や、現在は書面にての対応になっておりますが毎月のユニット会議で意見交換を行っています。また年2回個別に面談も行い意見交換を行っております。	職員の意見や提案を出退勤時や申し送り、休憩時間など、随時話を聞く機会を設けています。また、毎月のユニット会議や半年に一回の個人面談の際に、職員の意見や悩み事も聞いています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回、昇給に関しての面談を行い、給与水準の向上に努めております。	職員一人ひとりの勤務状況を把握しコミュニケーションを取るよう心がけ、職員の離職防止や定着化に努めています。職員は年に一回、夜勤者には年に二回の健康診断を行い、健康管理に努めます。タブレットを導入し記録類の時間短縮やペーパーレス化で業務の効率化にも努めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修に参加出来る様に声かけを行っております。法人内の研修に関しては、パソコンを使用した研修も行っております。	法人と連携し、一人ひとりに合った個別の育成計画を行い、年に一回評価しています。また、ユニットごとにリーダーをおき、ワンチームで統一の介護に努めています。コロナ禍ではオンラインで研修を受講し、情報の共有に努めています。	認知症対応力の向上に関する研修を受講される職員が増えることが望まれます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウイルス感染症の為、グループホーム連絡会も参加が出来ていない状態です。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居前にアセスメントを行い、ご入居者様の趣味嗜好を確認する様にしており、ご入居前に体験入居も出来る旨を説明しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居前のアセスメントで、ご家族様の要望なども聞くようにしています。また、ご入居後もご入居者様のご様子を電話や手紙で報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居前のアセスメントにて医療関係などの把握も行い、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物を干したり畳んだりして頂いたり掃除等のお手伝いを無理のない様にして頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、ご家族様にご入居者様の生活の様子を手紙にてご報告させて頂いており、事業所で解決できない場合などはご家族様に相談しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナウイルス感染症の為、面会時間や場所は制限をさせて頂いていますが、ご家族様や友人の来訪も多くあります。電話等も頂き、お電話にてお話しされている事もあります。	利用者や家族に生活歴を聞き取りを行い、馴染みの人や場所との関係の把握に努めます。コロナ禍では面会はタブレットを使用し、テレビ電話で面会の実施をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の共有スペースにソファも設置しており、食事以外の時は、ソファにて過ごす方も多くお話しやレクなどをさせて頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご希望やご相談があった場合は、支援させて頂いています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居前のアセスメントで、ご本人やご家族様から思いや希望などの聞き取りを行い、ご入居後は、居室担当を中心に生活態度や変わってきた事などを連絡ノートに記載し職員に情報共有を行っています。	利用者の思いや意向を把握してアセスメントシートなどに整理しています。日々の様子は連絡ノートで共有し、変化があると随時記録し担当者会議で整理しています。特に家族から、利用者の様子や意見、困りごとなど傾聴しています。変化が見受けられない場合にも半年に1度整理しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前のアセスメントで生活歴や生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にモニタリングを実施し心身状態の把握に努めており、支援経過記録にて流れが分かるように現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者や介護職員やご家族様の意見を取り入れ、定期的に担当者会議を開催し介護計画の作成や見直しを行っています。	全職員と3ヶ月ごとにモニタリングを行い、短期目標や状態変化を6ヶ月ごとに見直します。コロナ禍では電話で家族の意向を聴取し、担当者会議を行い、ケアプランを作成します。ケアプランは家族には電話で説明し、書面も郵送しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は個別に記録し担当者会議や毎月のユニット会議で各ご入居者様に関して話し合いを行い、介護計画の見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	美容ボランティアなどを受け入れおり、介護プラン以外のサービスや支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一部のご入居者様ですが、ご本人の状態安定の為、外部の病院に受診する等しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在、ご入居者様全員が事業所の提携医を主治医としています。内科は月に2回の往診の他、現在はコロナウイルスの影響の為、週に1回になっておりますが看護師の往診もあります。眼科と歯科は初めに無料検診があり、必要な方は契約しています。	かかりつけ医と提携医の選択を、入居時に説明し、同意を得て提携医と契約を行っています。基本的には、月に2回の主治医の往診があり、週に1回訪問看護師による健康管理を行っています。外部の病院の受診は、職員と家族で対応しています。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関である「中央林間東クリニック」の看護師が現在はコロナウイルスの影響で週に1回になっておりますが往診があり、緊急時など24時間の連絡体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院などされた場合は、病院関係者やご家族様と密に連絡を取り合い、情報交換や相談を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居の契約時に重度化や終末期における対応について指針を説明しています。ご家族様の希望などが整った場合は看取りを行っています。その場合は、医師、家族、介護者の三者で話し合いを行い、看取り契約を行います。	重度化・看取りの指針は家族と本人へ契約時に説明し、内容の理解を得ています。事業所では看取りの経験もあり、家族や主治医とも連携して本人が過ごしやすい終末期を迎えるように努めています。年1回勉強会を行ない、救命救急の研修も受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	大和消防本部にて全職員救命講習を受講し施設内でも定期的に勉強しており実践力を身に付けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、防災訓練を実施しています。内1回は消防署立ち合いのもとで消化器の使い方等の指導を受けています。また、自治会主催の防災訓練にも職員が参加し地域との協力体制を築いています。	避難訓練は消防署の協力を得て年に2回行っています。コロナ禍前は、自治会主催の防災訓練に参加して、近隣住民の人との協力体制を取り結んでいます。コロナ禍により今年度は職員と入居者で行っています。災害時用備蓄品は倉庫で員数・品質管理をしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけや対応に関しては定期的に勉強会を行ったり、ユニット会議や朝の申し送りの際に話し合いをし、全職員統一出来る様にしています。	居室に入る際は必ずノックする事や、トイレなどの介助をする時は、必ず扉を閉めて行うなど配慮しています。プライバシーに関する勉強会を年1回実施し、レポートでも確認しています。書類は鍵付きのロッカーに保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様の思いや希望を出来る限り受け入れられる様に心がけており、ご入居者様自身が決定出来る様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者様一人ひとりが居室にて過ごされたり食堂のソファにて過ごされたり、希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容等の散髪にも来て頂いており、カラーやパーマなどの希望があるご入居者様に関しても行って頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、業者からレシピの食材が配達され温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、美味しい状態で召し上がれるように配慮しながら提供しています。毎月、イベント食が4種類選べるようになっており、お好きなものを選んで頂き食事が楽しみになるように工夫しています。	外部業者から食材を注文しています。正月や父の日、七夕などの行事の際は、入居者と一緒に料理や誕生日ケーキを作ったり、バイキングやお寿司で祝っています。利用者は役割を持ち、食後の洗い物なども手伝っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全ご入居者様の毎食の食事量や水分量も確認し記録に残しています。また摂取量が少ないご入居者様には積極的に声掛けし、摂取して頂ける様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全ご入居者様とも、毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の観察を行っています。また、定期的に訪問歯科の往診も受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方には、一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的な声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援しています。おむつの方に関しては、パット交換で対応しています。	排せつチェック表を活用し自立排泄を促し、適宜誘導しています。バランスを崩し転倒しないよう、歩行の見守りや介助に努めています。声掛けに対して嫌がる場合は、時間を置いたり、別の職員が声を掛けるなど、利用者の気持ちを優先する介助に心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要な方には排便観察も行い、便秘の方等には、主治医の指示を仰ぎ、下剤の内服をして頂き便秘の予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2回入浴支援をしています。リフト浴も完備しており、ご入居者様全員が入浴出来ています。入浴を拒否する方には、時間や人を変えたりして個々に応じた入浴を支援しています。	週2回の入浴で、シャワー浴を希望する人もいます。足腰が弱ってきた人には、リフト浴で対応するなど、個々に合わせた支援に努めています。同性介助も行っています。ゆず湯にしたり、音楽を掛けたり入浴が楽しめる工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活スタイルを把握し、日中に関しても食後などにも休んで頂ける様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬に関しては、主治医や薬剤師と常に連絡を取り合い、ご入居者様の体調に合わせて支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの出来る事を大切にしてお手伝いやレクリエーション等も楽しんで頂ける様に支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルス感染症の為、積極的な外出支援は出来ませんが、個別での散歩の対応等出来る限り外の空気に触れられる様に支援しています。また、ご家族様の協力を得て車で外出される方もコロナウイルス前はありました。	初詣や花見、遠足などの外出支援を行っていましたが、現在はコロナ禍により中止しています。外食や旅行も自粛しています。施設駐車場で日向ぼっこや、個別での施設周りの散歩を行い、なるべく外気にふれるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額ですが、ご本人様ご自分で持っている方もおります。購入希望等があった場合は、ご家族様にも相談し購入しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関しては、各ユニットの事務所に設置しており、利用して頂いています。手紙に関するもお預かりさせて頂き、投函する等支援しています。			
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有リビングは段差もなく全居室が見渡せ開放的な空間になっています。廊下の壁には、イベント時の写真やご入居者様と一緒に作成した作品も掲示させて頂いています。また食堂内にご入居者様が寛げる様にソファを設置し居心地よく過ごせる空間作りをしています。	リビングにはソファを置き、利用者の居心地の良い空間になるよう配慮しています。午前中は頭を使う脳トレ、午後は体操やレクリエーションを行っています。新型コロナウイルス感染拡大予防対策として食事前の1日3回は、換気をしています。温度と湿度にも配慮しています。壁には、イベントの写真や利用者と職員と一緒に制作した作品も飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各ユニットに共有スペースを確保しご入居者様一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。			
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は全室個室となっており、ベッドとエアコンと防災カーテンを完備しています。それ以外の物は一人ひとりが使い慣れた物を持ち込んで頂き、落ち着いて生活できるような空間作りを支援しています。	照明やエアコン、ベッド、カーテンを備えています。線香、ろうそく以外は持ち込みの制限を設けていません。居室の清掃は居室担当者制で毎日行っています。シーツ交換も週に1回行い清潔に保っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの状態により、居室のレイアウトの変更や環境整備を行い安全かつ出来る限り自立した生活が送れる様に工夫しています。			

事業所名	グループホーム ソラストつきみ野
ユニット名	ユニット2

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに ○ 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	年度ごとに事業所目標を作成し4月の会議等で共有し、半年ごとに各職員と個人面談を行い、実践出来ているかの確認も行っております。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し、回覧板や運営推進会議でも、お知らせ等で情報を頂いております。現在は新型コロナウイルスの影響で地域行事の開催やボランティアの受け入れの中止が余儀なくされ、地域の方々と交流の機会はありませんが、職員の出退勤に挨拶を交わしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所としては出来ておりません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在は、書面での対応となっておりますが2か月に1度運営推進会議を開催しメンバーの大和市役所介護保険課や地域包括支援センターや自治会長や民生委員やご家族様に報告し参加者からアドバイスを頂き、サービスの向上に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	研修や講習会があった時は、職員にも内容を周知し参加を促しています。相談や質問がある場合は、大和市役所介護保険課の方とメールや電話にて連絡をとっています。また、生活保護受給者の受け入れも行っている為、大和市生活援護課の方とも日頃から連絡を取っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロのマニュアルを作成し現在は書面にて勉強会を行っております。事業所内にも身体拘束の指針等を掲載しております。また、「身体拘束廃止委員会」を3か月に1回開催しております。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止に係る指針を作成し現在は書面にて勉強会を行っております。事業所内にも指針等を掲載しております。また「虐待防止委員会」を3か月に1回開催しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は、書面にて勉強会を行い、知識を得て個々の必要性を関係者と話し合い、活用できないか提案しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、十分に説明をし疑問点等ないかも確認し、同意のもと署名と捺印をもらっております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年、ご家族様にアンケートを実施し、結果を事業所内に掲示する等全職員がご家族様からの意見や要望を把握出来る様にしています。また、全ご家族様に毎月状態の報告書をお送りしています。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の申し送りの時間や、現在は書面にての対応になっておりますが毎月のユニット会議で意見交換を行っています。また年2回個別に面談も行い意見交換を行っております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に1回、昇給に関しての面談を行い、給与水準の向上に努めております。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修に参加出来る様に声かけを行っております。法人内の研修に関しては、パソコンを使用した研修も行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナウイルス感染症の為、グループホーム連絡会も参加が出来ていない状態です。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居前にアセスメントを行い、ご入居者様の趣味嗜好を確認する様にしており、ご入居前に体験入居も出来る旨を説明しております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居前のアセスメントで、ご家族様の要望なども聞くようにしています。また、ご入居後もご入居者様のご様子を電話や手紙で報告しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居前のアセスメントにて医療関係などの把握も行い、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物を干したり畳んだりして頂いたり掃除等のお手伝いを無理のない様にして頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、ご家族様にご入居者様の生活の様子を手紙にてご報告させて頂いており、事業所で解決できない場合などはご家族様に相談しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在はコロナウイルス感染症の為、面会時間や場所は制限をさせて頂いていますが、ご家族様や友人の来訪も多くあります。電話等も頂き、お電話にてお話しされている事もあります。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂の共有スペースにソファも設置しており、食事以外の時は、ソファにて過ごす方も多くお話しやレクなどをさせて頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご希望やご相談があった場合は、支援させて頂いています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居前のアセスメントで、ご本人やご家族様から思いや希望などの聞き取りを行い、ご入居後は、居室担当を中心に生活態度や変わってきた事などを連絡ノートに記載し職員に情報共有を行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居前のアセスメントで生活歴や生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	定期的にモニタリングを実施し心身状態の把握に努めており、支援経過記録にて流れが分かるように現状の把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者や介護職員やご家族様の意見を取り入れ、定期的に担当者会議を開催し介護計画の作成や見直しを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は個別に記録し担当者会議や毎月のユニット会議で各ご入居者様に関して話し合いを行い、介護計画の見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	美容ボランティアなどを受け入れおり、介護プラン以外のサービスや支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	一部のご入居者様ですが、ご本人の状態安定の為、外部の病院に受診する等しています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	現在、ご入居者様全員が事業所の提携医を主治医としています。内科は月に2回の往診の他、現在はコロナウイルスの影響の為、週に1回になっておりますが看護師の往診もあります。眼科と歯科は初めに無料検診があり、必要な方は契約しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関である「中央林間東クリニック」の看護師が現在はコロナウイルスの影響で週に1回になっておりますが往診があり、緊急時など24時間の連絡体制も整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入院などされた場合は、病院関係者やご家族様と密に連絡を取り合い、情報交換や相談を行っています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居の契約時に重度化や終末期における対応について指針を説明しています。ご家族様の希望などが整った場合は看取りを行っています。その場合は、医師、家族、介護者の三者で話し合いを行い、看取り契約を行います。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	大和消防本部にて全職員救命講習を受講し施設内でも定期的に勉強しており実践力を身に付けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、防災訓練を実施しています。内1回は消防署立ち合いのもとで消化器の使い方等の指導を受けています。また、自治会主催の防災訓練にも職員が参加し地域との協力体制を築いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉かけや対応に関しては定期的に勉強会を行ったり、ユニット会議や朝の申し送りの際に話し合いをし、全職員統一出来る様になっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様の思いや希望を出来る限り受け入れられる様に心がけており、ご入居者様自身が決定出来る様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者様一人ひとりが居室にて過ごされたり食堂のソファにて過ごされたり、希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	美容等の散髪にも来て頂いており、カラーやパーマなどの希望があるご入居者様に関しても行って頂いています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、業者からレシピの食材が配達され温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、美味しい状態で召し上がれるように配慮しながら提供しています。毎月、イベント食が4種類選べるようになっており、お好きなものを選んで頂き食事が楽しみになるように工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全ご入居者様の毎食の食事量や水分量も確認し記録に残しています。また摂取量が少ないご入居者様には積極的に声掛けし、摂取して頂ける様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	全ご入居者様とも、毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の観察を行っています。また、定期的に訪問歯科の往診も受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方には、一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的な声掛けや誘導でトイレでの排泄を支援しています。おむつの方に関しては、パット交換で対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	必要な方には排便観察も行い、便秘の方等には、主治医の指示を仰ぎ、下剤の内服をして頂き便秘の予防に取り組んでいます。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2回入浴支援をしています。リフト浴も完備しており、ご入居者様全員が入浴出来ています。入浴を拒否する方には、時間や人を変えたりして個々に応じた入浴を支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活スタイルを把握し、日中に関しても食後などにも休んで頂ける様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬に関しては、主治医や薬剤師と常に連絡を取り合い、ご入居者様の体調に合わせて支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの出来る事を大切にしてお手伝いやレクリエーション等も楽しんで頂ける様に支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルス感染症の為、積極的な外出支援は出来ませんが、個別での散歩の対応等出来る限り外の空気に触れられる様に支援しています。また、ご家族様の協力を得て車で外出される方もコロナウイルス前はありました。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額ですが、ご本人様ご自分で持っている方もおります。購入希望等があった場合は、ご家族様にも相談し購入しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話に関しては、各ユニットの事務所に設置しており、利用して頂いています。手紙に関するもお預かりさせて頂き、投函する等支援しています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有リビングは段差もなく全居室が見渡せ開放的な空間になっています。廊下の壁には、イベント時の写真やご入居者様と一緒に作成した作品も掲示させて頂いています。また食堂内にご入居者様が寛げる様にソファを設置し居心地よく過ごせる空間作りをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各ユニットに共有スペースを確保しご入居者様一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は全室個室となっており、ベッドとエアコンと防炎カーテンを完備しています。それ以外の物は一人ひとりが使い慣れた物を持ち込んで頂き、落ち着いて生活できるような空間作りを支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの状態により、居室のレイアウトの変更や環境整備を行い安全かつ出来る限り自立した生活が送れる様に工夫しています。		

2021年度

事業所名 グループホーム ソラストつきみ野  
作成日：2022年4月27日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナウイルス感染症の為、地域行事への参加やボランティアなどの受け入れが出来ていない。	以前の様に地域行事の祭りなどに参加ができ、ボランティアなどの受け入れを再開出来る様にする。	地域行事などが再開された場合、マスクや手洗いなどの基本的な感染症対策をし参加していく。ボランティアなどの受け入れの為、館内でも検温や消毒などの感染症対策を継続して行う。	3ヶ月
2	10	事業所内での研修などは、動画や書面などで対応しているが、外の研修にもスタッフの皆様も参加出来ていない。	事業所外の研修にも、積極的に参加出来る様にする。	感染症対策やシフトの調整等を行い、参加出来る様にしていきます。	3ヶ月
3	49	コロナウイルス感染症の為、日常的な外出支援が出来ていない。	以前の様にお花見や夏祭りや初詣などの季節ごとのイベントの外出や日常的な外出支援を出来る様にする。	マスクや手洗いなどの感染症対策を行い、密にならない様に少人数での外出などの日程の調整を行っていきます。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月